

おおしま まさかつ
大島 正克



亜細亜大学学長

栗田充治前学長の任期満了に伴い、10月1日付けで学長に就任した。任期は3年間。滋賀県生まれ。早稲田大学商学部を卒業後、同大学大学院商学研究科博士課程を修了。1998年本学経営学部にて会計学担当として奉職。1993年経営学部教授、2000年からの2年間と2006年からの4年間を経営学部長、2015年からの3年間を副学長、理事、硬式庭球部部长、硬式野球部部长を歴任。硬式野球部部长時代には18名

のプロ野球選手が輩出。留学生会顧問も歴任し、また配偶者が台湾からの留学生だったことから留学生教育にも力を注いできた。対外活動としては、公認会計士試験委員、(学)見華学園監事、(公財)全日本大学野球連盟評議員、(一財)東都大学野球連盟副理事長、日本管理会計学会副会長、日本社会関連会計学会理事、国際戦略経営研究学会理事などの要職を歴任している。

専門の会計学の立場から、アジア諸国の企業会計の研究を続けてきたが、その国・地域の社会や文化をしっかりと理解すべく、本学教授で台湾出身の菅俊雄(楊天溢)教授(経営史)の大学院ゼミや研究会で学んだ。それらを基に『中国企業会計の研究』という50万字超の博士論文を完成させ、2005年2月、早稲田大学から博士(商学)を授与された。建学の精神「自助協力」をモットーに、大学運営に邁進する所存である。

たしろ ちから
太城 力良



兵庫医科大学理事長

新家莊平理事長の退任に伴い、副理事長であった太城力良が2018年10月に理事長就任、任期は2020年3月末日まで。

太城新理事長は、1947年大阪府生まれ。1972年大阪大学医学部を卒業、1980年大阪大学麻酔学講座助教授、1988年大阪府立母子医療センター手術部長、1994年兵庫医科大学麻酔学教授、2005年学校法人兵庫医科大学理事(経営企画・危機管理担当)、200

9年同病院長、2014年副理事長、ささやま医療センター病院長(2017年3月まで)。2014年から2年間、関西学院大学専門職大学院経営戦略科教授を兼任した。

専門分野は麻酔科学で、周産期麻酔・集中治療、麻酔作用理論の著書論文が多数ある。阪神・淡路大震災時には学生を含む教職員チームを組織し、市内全救護所で診療活動を展開した。

この後、大規模災害時の実地訓練を毎年実施し、福知山線脱線事故時には、多数の負傷者の受け入れを円滑に行った。ささやま医療センター病院長時には、経営改善と共に地域包括ケアを具現化する医療人の育成を兵庫医科大学と協働して開始した。今後も、患者を支えそのQOLを考える医療人・リサーチマインドを持つ医療人を育てるとともに、新病院の建築に向けて経営基盤の安定化に手腕を発揮することが期待される。

福井次矢 76京都大学医学部卒。'84ハーバード大学公衆衛生大学院修了。'05から聖路加国際病院院長。'16より聖路加国際大学学長。京都大学名誉教授。

田畑邦治 白百合女子大学学長。上智大学大学院哲学研究科修了。修士。宗教学・ケアの倫理学専攻。著書『心豊か』に生きるヒントは古典にあり。』ほか。

北條英勝 武蔵野大学教務部長、人間科学部教授。'98東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得退学。修士（社会学）。

西川幸穂 学校法人立命館常務理事。'85立命館大学法学部卒、同年学校法人立命館入職。広報課長、総務部長、人事部長などを経て、'17から現職。'15～'17大学行政管理学会会長。

吉川倫子 学校法人芝浦工業大学理事・評議員、芝浦工業大学豊洲学事部長。学習院女子短期大学卒。人事課長、豊洲学事部次長、大宮学事部長を経て、'16から現職。

三浦 暁 早稲田大学人事部長。早稲田大学法学部卒。'89早稲田大学入職。人事課長、人事部副部長を経て、'17から現職。

音 好宏 上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

五十峰聖 立命館アジア太平洋大学教育開発学修支援センター准教授。主著『TOEFL TESTスピーキング英単語（河合出版）など。

大久保瞳 立命館アジア太平洋大学アカデミック・オフィス職員。'08ケネソー州立大学経営学部金融学科卒。'10から現職。

河野修平 立命館アジア太平洋大学アカデミック・オフィス職員。'12立命館大学文学部人文学科卒。'12学校法人立命館入職、'15から現職。

花光 清 阪南大学教務部教育情報課長。'94阪南大学商学部卒。'95阪南大学入職、'11入試広報課、'15大学教育センター担当事務局（現教育情報課）を経て、'18から現職。

吉村雅文 順天堂大学スポーツ健康科学部副学部長、教授、運動部運営委員長。'92順天堂大学大学院体育学研究科修了。博士（スポーツ健康科学）。専門はコーチ学、トレーニング科学。

青木和浩 順天堂大学スポーツ健康科学部学部長補佐、教授、広報委員長。'94順天堂大学大学院体育学研究科修了。博士（スポーツ健康科学）。専門はコーチ学、体力学。

星野次郎 姫路獨協大学人間社会学群教授。'85京都大学大学院理学研究科修了。理学博士（動物学）。主著『マンドリルの採食生態』、『人類以前の社会学』（河合雅雄編、教育社）など。

南木睦彦 流通科学大学商学部教授、初年次教育専門部会会長。大阪市立大学理学研究科博士課程単位取得退学。理学博士。専門は古民族植物学など、教育関連論文も執筆。

及川 愛 (株)進研アド高次接続教育部部長。'02
日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専
攻博士課程前期修了。市場調査会社を経て、'06
(株)進研アドに入社。'18から現職。

石田 あすみこ (株)進研アドプロモーション
部。'14北海道大学法学部卒。'14(株)進研アド入
社以来、高等教育機関の高次接続支援に従事。

松原道一 学校法人駒澤大学理事長。

小嶋 顕 立教大学総長室広報課(学校法人
立教学院広報室兼務)。中途採用で'07に入職
後、入学センターを経て'13から現職。これま
でにウェブサイトを、広告、広報誌などを担当。

橋本明子 国際基督教大学パブリックリレー
シヨンス・オフィス室長。'93国際基督教大学
大学院行政学研究科博士前期課程修了。'04同
大職員、'06から広報担当、'08から現職。

松本 崇 神戸女学院大学学長室広報担当。'03
京都大学大学院経済学研究科修士課程修了。
民間企業勤務を経て、'10学校法人神戸女学院
入職。'16から現職。

橋本敏彦 (株)日経BPコンサルティング
ランドコミュニケーション部。

齋藤公太 國學院大學研究開発推進機構助
教。'17東京大学大学院人文社会系研究科博士
課程修了。博士(文学)。國學院大學研究開発
推進機構研究補助員などを経て、'17から現職。

堀真奈美 東海大学健康学部長、教授。慶應
義塾大学法学部卒、同大学院政策・メディア
研究科修士・博士課程修了。専門は社会保障
論、医療経済、医療政策。

金丸英子 西南学院大学神学部長、教授、西
南学院百年史編纂委員長。

本保恭子 ノートルダム清心女子大学学務部
長、人間生活学部教授。'08から現職。著書「福
祉化学の源流と前進(明石書店)」、「学校・
施設アーカイブズ入門(天空社)」など。

工藤宣弘 立正大学学生部長。

新田晃千 埼玉県出身、大正大学卒。高校時
代はレスリング部に所属。大正大学入学後、
日本代表になれると勧誘されてカバディ部に
入部し、競技生活を始めた。'02・'06年のアジ
ア競技大会では主将を務め、'10年大会では銅
メダルを獲得。'14・'18年のアジア競技大会に
も選手として出場した。

川島 葵 フリーアナウンサー。上智大学文
学部卒。東海ラジオ入社。'12からフリー。東
海ラジオ「TOKYO UPSIDE STATION」
「川島葵の東京からも歌謡曲」などに出演。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

- 11月5日(月) 自民党地方創生本部長に地方創生関係の予算を要望
- 11月6日(火) 財務省主計局次長と公財政支出のあり方について意見交換
- 11月12日(月) 日本私立大学団体連合会「私立大学の振興に関する協議会」を開催
総務大臣に地方創生関係の予算を要望
- 11月13日(火) 第7回常務理事会に出席
内閣府特命担当大臣（地方創生担当）に地方創生関係の予算を要望
- 11月26日(月) 自民党税制調査会小委員会に「信託協会」と協働で税制改正を要望
- 11月27日(火) 第8回理事会、第2回秋季総会に出席
- 11月30日(金) 全私学連合「私学振興協議会」を開催
自民党税制調査会メンバーに「信託協会」と協働で税制改正を要望
- 12月4日(火) 主要国会議員らに平成31年度私立大学関係政府予算を要望

- 12月7日(金) 麻生太郎財務大臣・主要国会議員らに平成31年度私立大学関係政府予算を要望
- 12月11日(火) 第8回常務理事会に出席

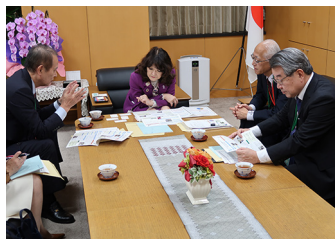


国会議員との「私立大学振興協議会」



財務大臣に予算要望

- 12月13日(木) 全私学連合「私学振興懇親会」に出席



地方創生大臣に
地方創生関係の予算を要望

開催報告

- 11月19日(月)・20日(火) **「学生支援研究会」開催**
「学生生活の多様化と学生支援」をテーマに、ANAクラウンプラザホテル神戸（兵庫県神戸市）にて開催。47大学69名の参加があった。
- 11月30日(金)・12月1日(土) **「第2回財務・人事担当理事者会議」開催**
「社会変革と大学経営——財政基盤強化を目指して——」をテーマに、神戸ポートピアホテル（兵庫県神戸市）にて開催。59法人83名の参加があった。

座談会 「私立大学におけるキャンパスのあり方」

特集 「進化する『キャンパス』」

小特集 「社会人・企業向け講座のいま」

表紙・大学点描 甲南大学 だいがくのたから 聖カタリナ大学

クローズアップ・インタビュー 「大迫 友紀さん (ガラス作家)」

編集後記

◆推薦入試で憧れの大学にいち早く合格を決めたクラスメイトは、よく図書館で受験とは関係なく読書を楽しんでいました。余裕に見えたのは小生の未熟さからであつたのと振り返るが、彼らなりに通常に受験する生徒よりも早く不安を感じていたに違いない。進学後、大学でどのように行動するのか、大学のその先にどんな光景が想像できるのか、今自分は何をすべきか、不安と期待が入り混じつた数カ月間であつたと思われ。

この時期のあり方について、今、大学も高校もともに改革と改善に取り組んでいる。今般、各大学や教育業界に精通の企業から貴重なご寄稿をいただくことができた。内容は、多文化理解、保護者や地域、企業を交えた取り組み、学生スポーツの側面からのサポート、入学前教育の入学後の活用など、切り口も多様である。入学前教育は高大接続改革と密接に関係する、いわば大きな難しいテーマであるが、たいへん読み応えのある内容となつた。

年末のご多忙の折、ご執筆いただいたことに心から感謝

申し上げる。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西大学総合企画室広報課長 依藤 康正)

◆企業の魅力に関する企業広報戦略研究所の調査では「最も魅力を感じる要素をどこで見聞きしたか」との問いに対して半数を超える54.4%がメディア(番組や記事、Webサイト、広告など)と回答し、その内訳は、テレビ番組(46.5%)、Webニュースなどの一般Webサイト(31.3%)、自社サイトやSNSなどの企業Web(24.5%)、新聞記事(24.0%)、テレビCM(18.1%)、雑誌記事(15.5%)であつた。つまり、企業Webサイトから発信される情報は、新聞記事やテレビCMよりも、企業の魅力との接点として重要度が高いことが分かる。大学も同様の重要性は年々高まつており、ターゲット設定やコンテンツづくり、魅力あるコンテンツ作成、運用体制といった課題に取り組んでいる。

本小特集では、直近の2017、2018年度にWebサイトのリニューアルを行った3大学の事例報告と、日経BPコンサルティングから好感を持たれるサイトづくり

について寄稿いただいた。大学の魅力を発信するWebサイトづくりの一助となれば幸いです。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・立命館大学総合企画部広報課長 五坪 智彰)

◆2018年も多くのプロスポーツ選手が引退した。引退の理由は「一けが」「体力の衰え」「モチベーションの低下」などさまざまだが、プロの世界で通用する体力とモチベーションを維持するのは並大抵のことではない。

今号のクローズアップ・インタビューでは、カバディ日本代表選手の新田晃千さんにお話を伺つた。

大学在学中にカバディの日本代表選手となり、その後、アジア大会に6回出場し、46歳となった現在も代表チームの一員としてプレーしている。その過程では、何度も引退を考えたという。そのたびに、自分ももつと奮い立たせているかかと自らを奮い立たせて現在まで現役を続行してこられた。格闘技に分類されるカバディは、強いフィジカルが要求される。ときに、強い気持が体力の衰えをも凌駕するところがあるのだろうか。(日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文)

